

平成29年度 第2回釧路市総合教育会議

日 時：平成29年11月24日（金）10：00～11：00

場 所：第1委員会室

構 成 員：蝦名市長、岡部教育長、山口教育委員、松尾教育委員、種村教育委員、小出教育委員

事 務 局：岡本総合政策部長、平山総合政策部次長、厚海都市経営課長補佐、高橋都市経営課専門員、
長尾都市経営課主査、宇部都市経営課主事
高木学校教育部長、高松教育指導参事、津田学校教育部次長、西村学校教育部次長、
土江田総括指導主事、佐々木総務課長補佐、安藤生涯学習課長補佐、渡部生涯学習課主査
奥山福祉部長、前田市民環境部次長、江縁産業振興部次長、三富こども育成課長

1. 開会

2. 市長挨拶

蝦名市長）

- ・お忙しい中、教育委員の皆様にお集まりいただき感謝申し上げます。
- ・新教育委員会制度がスタートし、新教育長を任命してから最初の総合教育会議の開催となる。
- ・引き続き教育委員の皆様には、釧路市の教育行政を推進していくため変わらぬお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。
- ・さて、9月29日に開催した「教育大綱策定に係る意見交換会」では、様々ご意見をいただきあらためて感謝申し上げます。
- ・そこでいただいた意見や今までの総合教育会議中での議論を踏まえ、教育大綱案としてまとめさせていただいた。
- ・この大綱にあるとおり、市も教育行政を地域の中でしっかりと進めていく、地域がしっかりと責任を持ちながら進めていく。また、まちづくりはひとづくりであるということが昔から言われており、こういった考え方をしっかり持っていきながら進めていきたいと考えている。
- ・大綱に「ともに 織りなす まちのみらい」と書いてある。一体となって、ひとづくり、まちづくりを行っていく。これを今回の契機、チャンスとして捉えながら進めていきたいという思いである。
- ・あらためてまた皆様のご意見をいただきながらしっかりと進めていきたいと思っているのでよろしくお願い申し上げます。

3. 議題

(1) 釧路教育大綱素案（案）について

- ・平山総合政策部次長より、資料に基づいて説明

<以下、意見・質問等>

山口教育委員)

- ・意見交換会では、福祉部、市民環境部、産業振興部、こども保健部など関係する部署から代表の方に出席していただき、また今日の総合教育会議にも出席していただいたので、非常に良い方向に進んでいるという感想をもったところである。
- ・今回示された素案については、意見交換会における各関係者の方からの様々な意見を上手にまとめられている。
- ・基本的な部分を欠落することなく様々なものを網羅してコンパクトにまとめていただき、教育推進基本計画、社会教育推進計画が非常にぶら下がりやすい大綱にさせていただいて感謝している。
- ・中身について、私たちもこれまでの会議の中で一番大事にしていた「あらゆる主体が垣根を越えたつながりを持って地域全体で取り組んでいく」この部分が非常に重要だと思っている。
- ・それを受けて「6つの基本的な考え方」の中の1点目と2点目、「地域が一体となった教育」、「成長の段階に応じた切れ目のない教育」に体现されている。
- ・また、私が特にこれから教育の分野に限らず大切にしていきたいのは、やはり「ふるさと釧路を愛する心の教育」という部分に力点を置いていかなければならない。これが釧路全体の発展につながっていくという気がしている。
- ・子どもたちは釧路が非常に魅力ある地域であることに気付かないまま、釧路にマイナスのイメージを持ちながら成長してしまっているのではないかと思う。
- ・釧路の魅力を正面から受け止めて、生まれ育ったことに誇りを持って成長してもらいたい。
- ・それから釧路に関わりがあった人たちをもっと大切にしていかなければならないのではないか。
- ・ひとつは色々なところから集まってきた大学生に対しては、本当の釧路を理解してもらい全国に散らばっていただくことが非常に大切なことではないかと思う。
- ・もうひとつは、仕事の関係で釧路に転勤して一定期間生活していた方にはいろんな分野の方がいる。
- ・転出した後もそのような人たちとのつながりや付き合いを大切にしていくことにより、釧路への感謝や離れても釧路に貢献したいという気持ちを持ち続けてもらえる。
- ・そのためには教育界だけでなく経済界との連携も重要になってくる。

種村教育委員)

- ・学校の先生と生徒とのやり取りが教育の中心だと思っていた時期もあるが、教育委員をさせていただく中で、家庭と学校、地域が一体となって教育に対応していくという視点が非常に大事だと最近特に感じさせられる。
- ・私は民間で小学生、中学生、高校生を教えているが、以前は学校と学習塾の関係は完全に相反していたと思う。
- ・最近はお互いに歩み寄って、情報交換とまではいかないが認め合っている。
- ・ただし受験校を決める際、たとえばある生徒が北陽高校に進学を希望した場合、我々の塾では試験の偏差値から北陽高校合格圏内と判断した場合、学校側では進路を変えた方が良いという指導がなされている。
- ・学校側はもちろん学校側の考え方もあり、我々には我々の考え方もある。
- ・子どもにとって一番大事なのは、行きたい高校に何とか合格したいという気持ちがあるなら、その気

持ちを尊重して、学校側の方でお子さんが通われている塾に問い合わせてみるなどの情報交換も今後必要となってくるのではないかと。

- ・子どもにはとても大事なことであり、どの部分が改善されれば北陽高校に合格することが可能か協議できるような関係性をつくる視点も大事。
- ・学校としての考え方を示すだけでなく、実際に子どもが自分が行きたい高校に向けて塾に通い頑張って勉強していく中で、お互いに子どものためになるような方策を考えていくことも今後の教育にとって大事なことでないか。

松尾教育委員)

- ・意見交換会では貴重なご意見を聞かせていただくとともに皆さんの思いを強く感じることができ、教育のことを考えてくださる方がこんなにたくさんいるのだなと感じた。
- ・素案(案)の6つの基本的な考え方の中に、各種の施策や事業の要素が含まれていることが伺えて広がりのある内容となっている。
- ・まちづくり基本構想の「域内連関」の意識を持ちながら、学校も家庭も地域もみんなで釧路の教育に取り組んでいくという考え方がよく出ていると思う。
 - ・意見交換会に出席された方が、幼稚園・小学校・中学校・高校・大学との連携をとっていくことが重要と意見を述べられていたが、その中において地域文化というものも大事であり、しっかりと引継いでいってほしいと思う。地域との連携もすごく必要と思う。
- ・「世代間交流」という言葉を最近聞かなくなっている。これはやはり必要なことで、地域の力、家庭の力というものを引っ張り上げていくための世代間交流も良いものと思う。
- ・学校側としても父母の参観が減少していることから、地域の力、家庭の力を一緒に引っ張り上げていくことが必要である。

小出教育委員)

- ・意見交換会では様々な時代の子どもを見ている人たちが今の子どもたちをどのように捉えているか、また幼稚園から専門学校、就職した人たちまでの若者像を知ることができて勉強になった。
- ・今回の素案については、「生きる力の育成」というところで、常日頃、子どもに対してとても大事と思っている部分がここに書かれていた。
- ・「自分らしく生きていけることができるように」という部分について、現代は難しくなっているのではないかと感じている。
- ・「くしろの子ども大集合」の際にも、子どもたちはみんな友達とは浅く広く付き合うと言っていた。
- ・自分の本当の気持ちを友達に見せないのは、自分が攻撃されたときにつらいから、また深く付き合っとうまくいかなかったときにつらいからとのこと。
- ・小学生でも目上の人から何か言われると、考え方はひとそれぞれだからということで終わらせてしまっている。
- ・いろんな考え方があるということを理解はしている。だから人の意見を受け入れるということはできている。
- ・しかし、人の意見を聞いて自分の意見と違う時に議論し相手に理解してもらうことをあきらめ、表面

上うまく付き合っている。

- ・来年度からの道徳の授業においては、人と話し合いながらお互いに理解した上で違う意見を受け入れるという深いところまでもっていけたら、将来に向けての取組につながっていくのではないかと。

山口教育委員)

- ・「世代間交流」が最近死語になりつつあるということについて、意見交換会でも地域活動を大切にしていかななくてはならないということ連合町内会の安藤副会長も話されていた。地域が生きていた時代を知っている世代はかなり高齢となっている。
- ・今の子育て世代の親御さんは、地域との関わりが昔ほどない中で成長してきたので、地域活動に対するイメージを持ってない世代であることから、もう少しご高齢の方に汗を流してもらわないとならない。昔の地域が生きた時代を知っている方々に引っ張ってもらうなどの世代間交流は必要なのではないか。
- ・小出委員の「自分らしく」ということは個性だと思う。
- ・個性というのはそれぞれ違って良いと思う。しかし今のいじめの問題を考えると、自分たちと違う異質のものを排除し、いじめの対象とってしまう傾向があることから、自分らしさを素直に出せない。
- ・自分がいじめの対象にされないように予防線を張りながら付き合う子どもが多くなっていることを考えると、今のお二人の発言はこれから非常に大切にしていかななくてはならない。

岡部教育長)

- ・本日、教育委員の皆様から非常に貴重なご意見をお伺いした。
- ・意見交換会の中では様々なキーワードが出されて、それを6つの基本的な考え方の中に落とし込んでいただいたという印象を強く持っている。
- ・前文に市長の考え方があり、6つの基本的な考え方がリンクしているということで、今後、私ども教育委員会としては前文あるいは6つの考え方に基づく連携する形での教育推進基本計画、社会教育推進計画、これらをまとめていく責任があり、お示しいただいた案を十分踏まえながら早急に両計画の素案づくりに努めていかななくてはならないとあらためて感じたところでもあり、今の段階ではうまくこれらにつなげていけるような計画にできるという私なりの感覚も持っている。

蝦名市長)

- ・小出委員の「友達と浅く広く付き合う」とはそういうことかと感じたところであり、私たちが考えていかななくてはならないが、同時に色々なところにも問いかけていかななくてはならないと思う。
- ・そういったものを世の中に問いかけ、情報を様々なところで表に出しながら、全体の中で考えていけるような制度をつくっていくのが良いのではないかと。
- ・教育というものは順調に進んでいかななくてはならないというのがあり、課題を学校や教育委員会の中で解決していこうと考えがちであるが、既に限度がきている。
- ・このような課題を表に出していったら、社会、市民に問い議論を深めていきながら様々なことを解決していくことが必要なのではないかと考えている。
- ・道議会議員時代に、子どもたちに「いただきます、ごちそうさまと学校の中でなぜ言わせるのか、ちゃんと給食費払っているんだぞ」という苦情を父兄よりいただいたことがある。
- ・そのような苦情は表に出すべきであり、課題を外にあげていくことにより、みなさまが議論をしてい

くことが重要な形だろうと考えている。

- ・表に出ないうちにうまく直そうとは考えないで、どんどん表に出していきながら改善していくことが重要だとあらためて感じたところである。
- ・民間と学校の情報交換は上手く進めていければと思う。自分のこどもが、TOEIC を取るために英会話学校に行かせてくださいと学校から言われたことがある。それは本人が希望しているということがあった。

岡本部長)

- ・今後この大綱素案(案)をさらに大綱案として進めていくことでよろしいか。

<異議なしの声>

(2) 今後の教育大綱策定スケジュールについて

- ・平山総合政策部次長より、資料に基づいて説明

<意見・質問等なし>

岡本部長)

- ・それではこのようなスケジュールのもとで進めさせていただく。

4. その他

なし

岡本部長)

- ・これで第2回釧路市総合教育会議を終了させていただく。
- ・次回の総合教育会議の開催につきましては、調整の後、後日改めてご連絡さしあげる。
- ・本日はお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。

(了)